**週刊やすいゆたか78号13年４月４日**

**ビジネスマンのための西田哲学入門**

**第二章　働くものから見るものへ**

　　　　**４、働くものから見るものへ**
　さて、西田は純粋経験を意志によって統一された経験と捉えることで、意識経験を絶対自由意志の現れだと説明しました。いかなる困難やトラブルであっても、それを絶対自由意志の立場から、己自身の生の現実として受け止めようとしたのです。

　意志の立場からは、世界は自己の意思を貫徹し、思い通りに変革するための素材であり、契機ですから、自分の意思と努力次第で何とかなるものでないと困りますね。元々純粋経験である限り、意志によって統一されているのですから、どうにかなるはずなのです。

　主観にとってどうにもならないものが意識統一されても、絶対自由意志は立ち往生するだけです。だいたい、仏教の立場から言えば、この世界の根底に法と一体化した仏陀がいて、世界はその現れなので、原理的に解決不能な問題はないはずなのです。

　とはいえそれはおそらく仏陀にとってはそうであっても、煩悩に生きる凡夫にとっては絶望的な苦難が次々と押し寄せてくるように思われます。
　純粋経験から絶対自由意志の立場にまで深まり、主意主義的な「働くもの」の哲学を展開してきた西田は、悪戦苦闘のドッキュメントの末、「見るもの」の立場を打ち出すようになるのです。

　一九二七年刊の『働くものから見るものへ』(岩波書店)には前年に書いた「場所」という論文が収録されていまして、そこで場所の論理が展開されていました。
　「純粋経験」はジェームズの方が先口です。「経験あって個人ある」ということで経験が個人を超えているということで、独我論を克服しているなと西田の問題意識が見られますが、完全に独創的な作品としては「場所の論理」を展開した「場所」で、この論文で西田哲学が本格的に成立したとされています。
　その場合に、意志の働くものの哲学から、場所の見るものの哲学に立場が転換しているわけです。『善の研究』で一躍日本を代表する哲学者になったわけですが、それは41歳の時で、「場所」論文は56歳の時です。

彼は一見実践的な立場から観想的な立場に転換したような印象を与えました。そういう批判もあります。しかしそういう解釈は、皮相な解釈でして、西田の問題意識を理解してうえでのものとは言えません。
　この転換の意味に、彼の哲学の動機についての発言からアプローチしましょう。
 **「哲学は我々の自己の自己矛盾の事実より始まるのである。哲学の動機は「驚き」ではなくして深い人生の悲哀でなければならない。」（「無の自覚的限定」巻6-116）**

**「哲学は単なる理論的要求から起こるのではなく、行為的自己が自己自身を見る所から始まるのである、内的生命の自覚なくして哲学というべきものはない、そこに哲学の独自の立場と知識内容とがあるのである。かかる意味において私は人生問題というものが哲学の問題の一つではなく、むしろ哲学そのものの問題であるとすら思うのである。行為的自己の悩み、そこに哲学の真の動機があるのである。」（「無の自覚的限定」巻6-178）**
　彼は家庭の不幸は若い頃は父親との対立、これは父と母の不仲、父と嫁のトラブルなどで大変深刻な苦悩を抱えていました。その内容は詳細ははっきりしませんが、凄まじいものがあったようです。日露戦争での弟の戦死も強い衝撃を受けています。
　それから妻や娘たちが病弱だったことです。一九一九年に妻寿美が脳卒中で倒れ、五年間寝たきりで、死んでしまいます。その間に健やかだった長男謙が腹膜炎で突然病死しました。三女静子は肺結核、四女友子と六女梅子はチフスに罹りました。西田はこの不幸を歌に歌っています。

**「かくてのみ生くべきものかこれの世に五年こなた安き日もなし」**

**「すこやかに二十三まで過し来て夢の如くに消え失せし彼」**

**「妻も病み子等亦病みて我宿は夏草のみぞ生い繁りぬる」**

**「我が心深き底あり、喜も憂の波もとどかじと思ふ」
「運命の鉄の鎖につながれて打ちのめされて立つ術もなし」**

　同僚の田辺元は西田の不幸を「旧約のヨブの一家のようだ」と形容しました。『旧約聖書』の「ヨブ記」によりますと、ヨブは信仰深く善良だったのですが、サタンが彼を不幸のドン底に突き落として、信仰をなくしてやるといったので、神がやれるものならやってみろということで、試されたわけです。神の仕打ちにヨブは抗議しますが、被造物である人が神に抗議してはいけないと神にたしなめられます。ヨブは苦しみに耐えて義を貫きました。それで、最後には神の祝福が与えられました。
　確かに世界は大いなる意志の自己展開であり、自分の意志もその現われであるという意味では、絶対自由意志の立場は成り立つにしても、それがどういう形で個人に現れるかは、個人にとってはとても感知しがたいものであって、人生の悲哀が現れるのをじっと受け止め、眺めるしかないわけです。それがどんなに深い孤独と悲哀であっても、それに耐えつつ、一般者の現われとして己の歴史的使命と役割を引き受けて絶対自由意志として生き抜くということです。

　自由意志として自由に認識し、決断し、行為するという「働くもの」の立場だけでは駄目で、しっかり自分の置かれた状況や己の立場を受け止めることも生きる上に大切なことだというわけでしょう。そうでないと、ただ前向きに創造的に積極的に進めと言われても、自分自身空っぽではなにもできません。何故、何をどう生きるかという必然性を感じられません。

　人生の悲哀を味わい、不幸を体験する中で、そんな自分に何ができるのか、どう生きることが若くして亡くなった娘や息子、妻の分まで生きることになるのか、自分は家族を幸福にはできなかったけれど、それなら何をすればいいのかとか、苦悶の中で心の深い底に気付くわけです。つまりその深き底というのは、喜びも憂いも超越している、それらを乗り越えて生きていく意志ですね。ここに意識を受け止める場所があるということです。

　場所の話は次節に回すとして、働くものから見るものという立場の転換はビジネスマンの人生経験やビジネスにどう生かせるでしょうか？また個人としてだけではなく、企業としてもこの話は役に立つかもしれません。
　世界を自分が自由に描きたい絵をかくキャンパスとして捉え、自分の才能を過信して、次々とクリエイティブな仕事をしていても、世間はそうそう評価してくれるわけではありません。次第に追い詰められていくのが落ちですね。芸術家や研究者でも一生定職につけなかったり、本職では食べられないので、フリーターをしながらという人も多いようです。その上で家庭の不幸などが重なったら悲惨ですね。何のために生きているのかとか、思い詰めたりするわけです。
　一般のビジネスマンでもいろいろ悩みはあるでしょうね。伸び盛りの業界だと超多忙でくたくたになり、仕事の面白味なんか忘れてしまったりします。斜陽の業界だと打つ手打つ手がはずれてしまって、空しくなってしまうかも。そういう時にただがむしゃらに前向きにクリエイティブに働けと言われても、息苦しくなるだけです。
　企業という組織体人間にとっても、何か性みたいに事業拡大や収益拡大に奔走して、様々な知識創造、価値創出を行っていても、円高デフレで、韓国や中国から価格破壊商品が洪水のように入ってくれば、たちまちシェアを奪われてしまいます。

　もちろん高付加価値商品に特化して、棲み分けをする予定だったのですが、それは高度な技術や知識やそれを持った人材が流出しないこと、日本の先進性が不動である限りです。しかし90年代から研究投資も鈍り、生産拠点も海外に移ったりして、技術も人材も流出していきました。
　その上教育が衰退して学力も相対的に低下し、士気もみるみる衰えていって、24時間戦えますかと言ったジャパニーズ・ビジネスマン戦士は伝説に成ってしまいました。途上国から優秀で士気の高い若者を取り込もうにも、日本は言語の壁が高く、容易ではありません。
　活路はきっとある筈です。常に前向きに前向きにといっても、簡単にはいきません。その上、三・一一の大震災に襲われ、福島原発が大事故に見舞われたわけです。安全神話は脆くも崩れ、日本の技術の先進性に根本的な疑問符がついてしまいました。

　日本は官僚国家と言われ、戦後の経済成長も経済官僚の優秀さに支えられてきたからだといわれますが、最近は国民年金の管理もできないし、震災が起こっても復興がなかなかすすみません、復興予算があってもそれをテキパキと執行できないのです。そのせいか老朽化した道路やトンネルの保全ができていないので、トンネル天井の崩落事故まで起こっています。
　今や企業・学校・行政・地域といったあらゆるところで総点検して、抜本的な対策を立てていかなければなりません。大学生になっても四則計算がきちんとできない、教育漢字が書けない、読解力がない、文章が綴れないというようでは、名前だけの大学ですから、もう本当は大学とは言えない筈で、そろそろ小・中・高・大という垣根をなくして、単元単位制にし、必要な単位をとれば、それに相応する職種に就職できるようなシステムにした方がいいかもしれません。
　ともかく、一度立ち止まって、しっかり自分を見つめ直し、自分は何故生まれ、ここにいるのか、自分はどう生きればいいのか考えるべきです。今の世界や日本の現実を見、歴史を振り返り、未来を展望して、その上で人類社会の発達、歴史の方向、日本の課題などを見据え、それぞれの企業や個人が己の特性を見つめ直して、どういう方向を目指すのか考え直すべきでしょう。これが「働くものから見るものへ」という発想の転換ということではないでしょうか。

**人類的危機とネオヒューマニズム**

**第二回　パースの人間記号論とマクルーハンの人間拡張論**

**１、パースの人間記号論その２**

 そのように理窟立てていきますと、事物を人間に含めるということを認めるにしても、それがどういう意義があるのかピンとこないという人が多いですね。特に危機の時代における人間観の見直しということとどう関連するのかということです。
　マルクスは『フォイエルバッハ・テーゼ』で「対象(事物)」を「実践」として主体的に捉え返すべきだとしました。パースの「記号=人間」論でも、事 物を人間の経験として主体的に捉え返しているわけです。近代科学文明では、人間は自然的事物や社会的な事物を客観的な存在として捉え、それを科学的に認識 することによって、他者として支配し、人間生活に道具として役立てようとしてきたのです。その結果として、人間は他者である自然を大改造したのですが、それは私人的な私利私益を得るための活動として行われたので、自然のバランスを崩してしまい、人間環境としての自然が喪われ、人類の存続すら危ぶまれるわけ です。
　社会的・環境的諸事物を主体の実践として捉え返せというのがマルクスで、知的な意識経験として見直そうというのがパースです。いずれも他者や他人事ではなくて、自分自身の問題として事物を捉え返し、課題の解決に取り組もうとしているわけです。

人類的危機の問題として原発の問題があります。文明の発達はエネルギーや電力需要の増加を生みます。化石燃料はいずれ枯渇します。それで原発なら、 高速増殖炉と再処理工場の技術が完成すれば、ほとんど無尽蔵に電力を供給できるようになるとされています。それでいずれは核技術を完成させたいというのは 分かります。
　でも高速増殖炉も再処理工場も大変危険な技術ですから、立地を間違えると万一の事故やテロや戦禍にあった場合、日本が壊滅しないとも限らないわけです。
　もし本当に無尽蔵の電力供給ができるようになるというのなら、何も国中活断層だらけの危険な国に立地しなくても、大砂漠の真ん中でもいいわけですね。世界中の資本と技術を集めて作り、そこから全世界に供給すれば済むことです。それを日本が立ち遅れたら大変だと考えるから駄目なのです。

活断層は大地震の危険を指し示し、原発事故は大災害を指示しているわけです。ある事物が他のどういう事物や事件・事故を指し示しているのかを考えるのが記号です。前の記号は今の思考となり、それが次の思考の記号となり、思考がつながっていくプロセスが人間なのです。

ですから人間は常に思考に思考を重ねていくことなのです。ですからこれだけすごい大事故に遭いながら、すぐに新しい原発を作ろうなんて安易にいうのは、正気とは言えませんね。福島とは全く違うものを作るから安全だという言い訳です。そんな言い訳、してもいいわけ？

チェルノブイリの大爆発があったとき、あれは停滞のソ連だから起こったので、日本では絶対に起こらないと政府は言いましたね。日本もやはり停滞したわけです。新しい原発を作っても、どんな事故があるかは予測しきれないし、未来永劫きちんとメンテナンスできるとは限りません。まともに思考を重ねれば、 日本では無理だと分かります。パースは、きちんと思考を積み重ねるべきだとしたわけです。

そして記号は新たに思考を積み重ねることだけれど、何を事物が指示しているか読み取るということは、大変なことですね。今まで通りでは、今抱えている問題は解けないわけです。常に創造的な知性を働かせて、新しい創意工夫を生みだし、それを新しい事物、製品に籠めていかなければなりません。震災復興とか、一千兆円の財政赤字の克服とか、教育における深刻な学力低下に歯止めをかけるとか言う場合に、パースの人間=記号論は大変示唆に溢れた画期的な議論だと思います。
　　　　　　　　　　　　　　　**つづく**

**やすいゆたかの部屋
http://www42.tok2.com/home/yasuiyutaka/
やすいゆたか事典**

[**http://www42.tok2.com/home/yasuiyutaka/jiten.htm**](http://www42.tok2.com/home/yasuiyutaka/jiten.htm)

**メールアドレス**

**qhmx56715@iris.eonet.ne.jp** **ウェブサイト『プロメテウスー新時代の知の総合誌』
http://www46.atpages.jp/~mzprometheus/**

**週刊やすいゆたか見出し一覧**

[**http://www42.tok2.com/home/yasuiyutaka/weekly/midashi.htm**](http://www42.tok2.com/home/yasuiyutaka/weekly/midashi.htm) **やすいゆたか著作集**[**http://www42.tok2.com/home/yasuiyutaka/shoin/index.html**](http://www42.tok2.com/home/yasuiyutaka/shoin/index.html)

**ミクシィ「倫理」が好き**

**http://mixi.jp/view\_community.pl?from=home\_joined\_community&id=1215249**